

中央保育園移転事業工事着工に嚴重抗議する

先日、高島宗一郎福岡市長は、保護者や、保育士の意見を十分聞いた上で、総合的に判断し、安全であるのならば早期着工したいと明言された。

そこで、市長は移転予定地の視察をおこなったが、いったい何を視察されたのか？

予定地内には 5m メートルほど入ったところで保育士に質問をただけである。その場で、園庭の広さの確認もしなければ、パチンコ店の排気ダクトすら見てはいない。また、本来検証すべきこれまでの 5 か所の避難路等は、全く見てもいない。そのまま現保育園へと行かれただけである。

現園に対して事前に告知もなく、園児が食事さなかの保育園に報道陣をひきつけて 30 人ほどで行くなどと言う実に非常識な事をされ、尚且つ、園内を確認して回るなど、今更何をされているのか甚だ疑問である。

そして、保護者との面談の中において、移転予定地を適地としたということへの質問などには何一つ明確に答えずに、翌日には「問題は前面道路だけである。」というような、一方的な結論を下し、「着工に入る」という記者会見を行ったことは大変遺憾であり、許しがたい行為である。

何をもち、総合的な判断としたのか、その経緯も議論も一切ない。そのような独善的な行為が市政を任されている者の行為として許されるものであろうか？

われわれは、住民監査請求と言う手段に出ているのである。それは、市の施策に瑕疵があるかどうか？と言う判断をしていただく場であるはずだ。また、そのような機能を持つからこそ、住民監査請求と言う制度がある。であれば、まず住民監査請求に判断を委ねるべきであり、市長の判断のみで行うべきことではないはずである。

あまりにも、市民の声を無視した行為に大変憤りを感じるものであり、到底子どもの安全を考えているなどとは思えない。そもそも、もともと狭い車道をさらに更に狭くする前面道路改修をほどこせば、渋滞が現状よりもさらに悪化し、有事の際に消防車や警察などの到着が現状の試算よりさらに遅れるのは容易に想像がつく。風俗施設に囲まれた環境という点からも、安全の面からも根本的に保育園に適していない土地であるという判断をすべきであり、現地建て替えこそが総合的な判断の結果であるべきだ。

私たち保護者の会は、この市民の声を無視した移転ありきの建設工事着工に断固反対し、このような対応に抗議させていただくと共に、今後とも移転予定地反対運動を続け、現状でも 1 万人の署名をいただいているなか、さらに訴訟、市長のリコールも視野に入れて反対運動を進めさせていただく。

平成 25 年 7 月 19 日

保護者の会 代表 堀田剛